

課題及び指導改善に向けて

1 調査問題 1 三

(自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫して話すことができるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

自分の考えが分かりやすく伝わるように、スピーチのどの部分をどのように工夫して【条件1】話すのか、その意図【条件2】を考えて記述する問題です。正答率は全国とほぼ同程度であり、聞き手に関心を持ってもらえるような表現になるように、言葉の抑揚や強弱、間の取り方を工夫するなど、スピーチ等の言語活動を行う際に大切になる力はお

川口さんのスピーチ

最近、自分の生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。その変化は、学校での学習にも表れていると思います。例えば、授業でインターネットを活用する機会が増えました。特に、オンラインで離れた場所にいる人と会話することもできて、その便利さを実感しています。一方で、相手と直接会っていないので、やりとりをスムーズに行いにくいという面もあるのではないかと考えています。

先日、総合的な学習の時間で、離れた場所にいる施設の方にオンラインでインタビューをしたときのことです。私は、画面を通してやりとりをしているという状況に気が取られて、相手に必要最小限のことを伝えるだけで精一杯になってしまいました。そのため、相手の反応を踏まえたやりとりをすることができないと感じました。後日、そのことを友達に話したところ、「私は、相手の言ったことに対して相づちを打つように気を付けていました」と話してくれました。

この言葉聞いてはっとしました。オンラインであっても、相手と話したことに相づちを打つたり、相手の話をきけてさら質問をしたりするように意識することが大事だったのです。これからは、オンラインで人と話すときに、このことに気を付けて、相手とのやりとりをスムーズに行えるようにしたいと思います。

二人の会話の一部

川口 ここで動画を止めてもらえますか。「最近、自分の生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます」という部分は、聞き手を引き付けるために、呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみました。いかがでしょうか。「やりとりをスムーズに行いにくい」という部分は、私も同じように感じたことがあり、この後のスピーチの内容に興味をもつことができたのでよいと思います。ありがとうございます。

田中 オンラインでインタビューをしたことを入れてみました。どうでしょうか。

川口 身近な内容で共感できました。始めに話したこととつながっている点が良いと思います。

田中 川口さんが伝えたい内容は分かりました。ただ、スピーチの冒頭から同じ調子で話しているので、言葉の抑揚や強弱、間の取り方を工夫してみようでしょうか。例えば、「オンラインで離れた場所にいる人と会話すること」という部分は、伝えたい内容に関係することなので、聞き手に関心をもってもらうために、ゆつくり大きく音で話すというのではないのでしょうか。

川口 なるほど。他の部分も話し方を工夫してみます。

三 二人の会話の一部——総説③「他の部分も話し方を工夫してみます」とありますが、あなたたちの部分をどのように工夫して話しますか。次の条件1と条件2にしたがって書きなさい。
なお、読み返して文を直したいときは、二巻紙で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。
条件1 「川口さんのスピーチ」のどの部分をどのように工夫して話すのかについて、言葉の抑揚や強弱、間の取り方をに着目して具体的に書くこと。
条件2 条件1のように話す意図を書くこと。

おむね身に付いていると考えられますが、更なる向上が望めると思います。田中さんの助言を受けて、話し方の工夫やその意図については考えられているものの、「オンラインで離れた場所にいる人と会話すること」以外の部分を取り上げられない生徒が見られました。これは、スピーチの内容を踏まえて、相手に伝えたいことは話のどの部分なのかを明らかにして話すことに課題があると考えられます。

(2) 指導の改善・充実に向けて

スピーチなどをする際は、話し手は、自分の伝えたいことを聞き手に分かりやすく伝えるために、場の状況や聞き手の興味・関心、情報量などを考慮しながら、聞き手に応じた語句を選択したり、話す速度や音量、言葉の調子や間の取り方、言葉遣いなどに注意したりして話すことが大切です。

そのためには、以下のような学習過程を仕組み、「自分の伝えたい事」と「表現方法」の関係について、主体的に整理しながら学んでいく必要があります。

- ① 相手に伝える必要感のある場面を取り上げ、スピーチ場面を設定する。
- ② スピーチの中で自分が相手に一番伝えたいこと、理解してもらいたいことを明確にする。
- ③ 相手に分かるように伝えるためには、どんな話し方をすればいいのか、様々な表現方法の工夫を考える。
- ④ 自分の選んだ表現方法を使って、実際にスピーチを行い、その効果を確かめる。

実際の話し方を振り返る場面では、スピーチの様子を、ICT 機器を使って、動画を記録し、自分の話し方を見たり、ペアやグループで互いのスピーチを聞き合い、検討したりする場面を設ける等の活動が効果的です。実際に話す体験を通して、主体的に表現と効果の関係について追究する学習過程を仕組みでいくことが求められます。

2 調査問題 3 四

(場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈することができるかどうかをみる問題)

(1) 課題が見られた問題について

「こどもの日浅い水辺を海にして」という俳句から想像を広げることで生まれた小説「都会のビーチ」で、話の展開を取り上げながら、場面と場面、場面と描写などを結び付けて、結末での登場人物の心情を解釈することをみる問題です。

正答率は全国・県をやや上回ったことから、文学的な文章の心情読解の場面において、抽象的な概念を表す叙述や心情を表す叙述に着目して読む力が、おおむね定着していると考えられます。一方で、「複数の場面や描写を相互に結び付けて展開を考えながら心情を解釈する」ということに、課題がみられました。

「『おれ』は何を『なるほど』と思ったのか、話の展開を取り上げて書く」という問いに対し、「水辺に海を見出していたのはどうやら息子だけではなかったらしい」という結末の描写から、直接分かることを引用し解釈することはできました。しかし、結末に至るまでの、息子の行動の描写と『おれ』の記憶の描写の展開を捉えた上での解釈が十分でないことによる誤答が、全国よりやや多くみられました。

(2) 指導の改善・充実に向けて

文学的な文章を読み味わうためには、話の内容や展開を正しく捉えることが大切です。しかし、これまでの学習では、個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけに留まっていたことが多いように思います。このような学習を、話の展開を捉えて、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行う学習へと改善していく必要があります。

そのためには、物語の結末部分等での生徒の疑問から生まれた「問い」を据え、それを主体的に解決していく学習場面を設定し、物語の展開と関連付けて追究していく必要があります。次のような学習展開例が考えられます。

- ① 結末部分の心情の解釈に関わってきそうな叙述を付箋に書き出す。
- ② その付箋を時系列に並べ替え、結末の問いを説明するのに必要な場面や叙述をグループで考え合い選び出す。
- ③ 選択した展開を踏まえて、結末の「問い」についての答えをグループ内で説明し合う。

それぞれの考えを伝え合う場面では、どの描写とどの描写を結びつけて考えるかによって、解釈も多様になるであろうことを踏まえ、自分の解釈の根拠を考えたり、他の読み手の解釈と比較したりすることが大切となります。

3

次の文章は、「こどもの日浅い水辺を海にして」という俳句から想像を広げることで生まれた小説です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

『おれ』は『なるほど』とありましたが、「おれ」は何を「なるほど」と思ったのですか。話の展開を取り上げて書きなさい。

四

線部③「なるほど」とありますが、「おれ」は何を「なるほど」と思ったのですか。話の展開を取り上げて書きなさい。なお、読み返して文章を直したときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。